

JSQC ニュース No.222

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話 03 (5378) 1506 FAX 03 (5378) 1507 ホームページ: <http://jsqc.i-juse.co.jp/E-mail:jsqcapp@a1.mbn.or.jp>

第70回品質管理シンポジウム

山梨大学 渡辺 喜道

(財)日本科学技術連盟主催の第70回品質管理シンポジウム(70QCS)に参加する機会を得たので、その概要を報告する。70QCSは2000年6月1日夜～3日昼にかけて、神奈川県箱根町のホテル小涌園で開催された。今回のシンポジウムのテーマは、「ミレニアムのTQM-TQMで国際競争力を創生する」であり、参加者は約220名であった。

シンポジウムの趣旨

今回のシンポジウムの趣旨は、『経営環境の変化に動じない変革・改革へのスピードのあるしなやかな対応が求められている今日において、TQMの理念・考え方・手法を追及し、21世紀型の日本産業はどうあるべきか、そのために何を、どのようにしなければならないかについてメスを入れ、国際競争力創生への新たな提言をまとめること』であった。

プログラム

70QCSのプログラムは以下であった。
特別講演:「問題はこうして解決するーディクスローズによる挑戦ー」 中坊公平氏(弁護士)
基調講演:「三重県における行政改革」 北川正恭氏(三重県知事)
発表1:「最も遅く研究開発に着手しても、最も早く商品化するには」 高須秀視氏(ローム㈱取締役開発本部長)
発表2:「コスト戦略と経営改革ー家庭用通信機器事業での取り組みー」 吉本陸郎氏(日本電気㈱第二パーソナルC&C事業本部長)
発表3:「カスタマーインの視点からトヨタ生産・販売方式の改革」 深津泰彦氏(トヨタ自動車㈱取締役)

発表4:「医療の質経営ー医療の質向上活動 MQIー」 飯田修平氏(練馬総合病院院長)

グループ討論およびその報告:

第1班:「創造的新製品開発の効率化とTQM」(リーダー:宮村鐵夫氏(中央大学教授))
第2班:「究極のコスト削減とTQM」(リーダー:岩崎日出男氏(近畿大学教授))
第3班:「情報技術(IT)の活用とTQM」(リーダー:中條武志氏(中央大学教授))
第4班:「行政ならびにサービス業へのTQMの普及・展開」(リーダー:小田島弘氏(財)日本科学技術連盟参与))
第5班:「グローバルスタンダードとTQM」(リーダー:吉澤正氏(筑波大学教授))

総合討論:グループで討論した内容の報告会

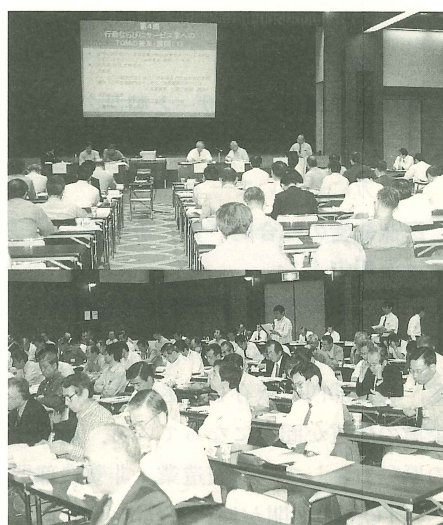
講演・発表の主な内容

特別講演で中坊氏は、理念先行型で行動すること、ディクスローズ、現場から根本的なことを考えることの重要性等について話された。

北川氏の基調講演では、意識改革、情報公開、生活者起点の行政運営等を基盤とする三重県の行政改革について話された。

高須氏の発表では、利益を得るためには付加価値が大切であること、垂直統合型・自前主義から脱却し、横型・分業型で専門分野を追及することの重要性等について話された。

吉本氏の発表では、経営という立場で



のコスト改革の重要性について話され、そのためには組織改革・情報共有化・プロセスマネージメント・意識改革等が必要であることが強調された。

深津氏の発表では、プロダクトアウトからカスタマーインへの変革、在庫車販売から受注車生産への変革、ITを活用したスピード、ビジュアル化、オープン化を柱とする業務改革等について話された。

飯田氏の発表では、意識改革、信頼の創造、方針管理、方針展開等を実施するため方法である医療の質向上活動(MQI)について話された。特に、組織の理念・方針・目標の重要性を強調されていた。

グループ討論の内容は省略する。

おわりに

今回のシンポジウムでサービスTQM研究会の設立が採択された。また、前回のシンポジウムで採択された箱根宣言に基づく日本品質革新機構(仮称)を近々にスタートするとの報告があった。

第71回シンポジウムのテーマは「経営改革における品質賞の役割」である。

「品質」誌、投稿論文の募集!

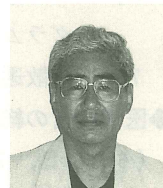
会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティーレポート、レター、QCサロンです。

「品質」誌編集委員会

私の提言

あなたのためのスポーツ

(有)エム・アイ・キュー
村 精治



「定年後どうしていますか」という質問をよく戴く。実は、何もやっていないのだが、やっているふりをする。

次に、「なにかスポーツをやってらっしゃいますか」と聞かれるのが楽しみである。「ラグビーを少し」と答えたとき、その方の顔にはどうしてこいつが?という表情が浮かぶからである。

ラグビーを始めたのは大学のとき、浦高のラグビー部であった同級生の誘いでまったくの素人が部創設に加わっただけ、その魅力に取りつかれて今日まで続けてしまった。

学生時代のポジションはスタンドオフ。元来、スタンドオフは、卓抜した運動神経、強靱な体力、気の強さ、加えてセンスの良さを必要とするのだが、高校時代サッカーをやっていたためか走りながらのキックを交えたプレーが相手を幻惑し、まああのラガーであった。

今は、浦和ラグビークラブと武蔵クラブに属して埼玉大学や江戸川の河川敷等、埼玉のラグビー場を駆け回っている。

では、試合のときは相変わらず華麗なプレーで満場を沸かしているのか。そうではないのである。学生時代の実体をボジとすると、今はネガのようなもの、やるべきことはちゃんとやっているが、トライの数はこの10年間1桁、CSやESをチームへの貢献度というデータでは語れないのである。

では、何故ラグビーをやるのか。外からながめてみると、いやはやよくまあこんなスポーツをと、われながら怖くなるのであるが、試合の夢はグラウンドをかけめぐり、15人でやるチームプレーとはいえ、ひとたびレフェリーのホイッスル鳴り響けば、あとはひたすら一対一のけんかさわぎ、タックルに徹し、ボールを持ったらただひたすら前進あるのみ、スリルに充ちているし、後で浴びるシャワーはいかなる賛辞をも凌ぐ爽快さ。

生活上のストレスは、ステッドマン医学大辞典(メジカルビュー社)によると、『心理学において個人に心理学的なひずみ、不均衡をもたらす物理的または心理的刺激』と定義されている。さて、あなたのストレスは、ゴルフのようなもので解消されるのだろうか。

支部問い合わせ先

中部支部 TEL 052-221-8318

関西支部 TEL 06-6341-4627

行事案内

●第264回事業所見学会(中部支部)

日時:2000年9月5日(火)

見学先:オーエスジー(株) 八名工場

テーマ:八名工場におけるTQM活動(仮題)

定員:50名(同業他社の方はご遠慮願います)

申込締切:9月2日(金)

但し、定員になり次第締切ります。

●第77回シンポジウム(関西支部)

日時:2000年9月5日(火)13:00~17:00

会場:天満研修センター(大阪)

テーマ:経営学からみた「品質」

定員:100名

参加費:会 員3,000円 準会員1,500円
非会員4,000円 学 生2,000円

申込締切:8月30日(火)定員になり次第締切

●第30回年次大会(総会・講演会・研究発表会)

日時:2000年10月28日(土)9:30~19:50

会場:明治大学創立120周年記念館

リバティタワー

東京都千代田区神田駿河台1-1

内容:9:30~ 第30回通常総会

10:30~ 新会長講演

狩野紀昭氏(東京理科大学教授)

11:15~ 特別講演「品質管理と自律的小集団」

山田雄一氏(明治大学学長)

13:10~ 研究発表会

18:10~ 懇親会

参加費:会 員5,000円(締切後5,500円)

非会員7,000円(締切後7,500円)

準会員2,500円 学生(一般)3,500円

会員・非会員4,000円

準会員・学生(一般)2,000円

申込方法:同封申込書に所定事項をご記入のうえ本部宛お申込みください。

申込締切:10月18日(火)

●第20回クオリティパブ

日時:2000年9月29日(金)18:00~20:30

会場:(財)日本科学技術連盟・東高円寺ビル

テーマ:日米エクセレント・カンパニーの最新事情

ゲスト:長田 洋(山梨大学)

会費:会 員2,000円 非会員2,500円
準会員・学生一般1,500円(含軽食)

申込方法:氏名、所属、連絡先を記し本部宛(FAX03-5378-1507)お申込みください。(定員30名)

研究会だより(6月・7月)

◆テクノメトリックス研究会

(6月24日)

1. 非巡回の有向グラフの識別における外生変数の役割
2. 潜在変数を含むDAGモデルの構成
3. An approach of multivariate data analysis for estimation of expenses for certification of ISO 9000
4. 主変数選択について
5. アナログICのモデリング
6. グラフィカルモデリングの解析プログラムについて
7. 共分散選択のロバスト推定

◆医療経営の総合的「質」研究会

(6月10日, 7月21日)

1. 東京慈恵医科大学の事例報告
2. クリティカルパスの説明
3. 河北総合病院の事例報告
4. 欧州でのヘルスケアに関する会議参加報告
5. 欧州でのPre-Congress Symposiumでの「医療の質の改善」フォーラム報告

◆TQMにおけるビジョン経営事例研究会

(6月22日, 7月20～21日)

1. 統計解析結果の展開について
2. ビジョンの問題点に関するアンケート結果報告
3. ビジョン経営における方針管理の提案について
4. パラダイムシフトに基づくビジョン経営について
5. ビジョン経営の統計解析結果の展開について
6. 研究会終了報告作成について

第256回事業所見学会(中部支部)

トヨタ自動車(株)高岡工場

第256回事業所見学会が、2000年3月3日(金)に、トヨタ自動車(株)高岡工場において開催された。参加者は約50名、募集後1週間で定員一杯となるほどの盛況ぶりであった。

1966年に操業を開始した高岡工場は、カローラ、ヴィッツ、bBなどの人気車種を生産しており、同社の工場のなかでも最量産車両工場として知られている。

今回の見学会は「高岡工場における品質づくり込み活動」をテーマとして開催され、ビデオによるボデー工程の紹介、ヴィッツ生産工程と総合排水処理場の見学、世界戦略車ヴィッツシリーズのひとつであるbBの円滑かつ効率的な立ち上げに向けた活動についての説明が行われた。

ヴィッツ生産ラインでは、工場側のご配慮により、通常の見学ルートから外れて工程の間近で見学させていただく事ができた。

全長1400mに及ぶ、明るく整理・整頓の行き届いた生産ラインであり、オペレータの安全確保、作業負担軽減など、人を大切にするための工夫や、コンパクトな手作り設備による自動化、効率化のための工夫、締め付けトルクなど、製品の品質を保証するための工夫を随所に見る

◆ナレッジマネジメントとQFD研究会

(6月27日, 7月24日)

1. 設計知識の体系化と活用に関する研究について
2. 知識構造について
3. ケアについて
4. ケアの知識

◆複合技術領域における人間行動研究会

(6月28日, 7月17日)

1. 研究報告「米国・EUの事故報告制度」の議論
2. 研究報告「マニュアル・絵表示の誤解のしやすさの評価」の議論
3. 研究報告「複雑環境での人間行動におけるシステムへの信頼と適応」の議論
4. 研究報告「ユーザーと製品のインターフェイスの構築—チーム作業の考え方に基いて—」の議論

医療経営の総合的「質」研究会
近況報告

主査 飯田修平(練馬総合病院院長)

日本経済、産業界は元気がない。製造業、製造部門に依存してきた産業構造、企業の体質が問題になっている。活性化の原動力として、非製造業、非製造部門へのTQMの展開が期待されている。

平成11年6月の第68回QCSから第70回まで、「行政ならびにサービス業へのTQMの普及・展開」が検討された。

医療の質あるいは医療経営の部分的な質に関する検討はあるが、医療経営の総合的質の検討はおこなわれていなかった。医療界にも変革の波が押し寄せており、医療における組織管理の検討が必要であると主張してきた。

このような時期に、山岡建夫副会長から、品質管理学会の指定研究として、医療に関する検討をせよとの指示を頂いた。ことができた。

続いて見学した総合排水処理場は、「全ての排水を監視し、汚れた水を外に出さない」という徹底したシステムであり、環境保全に取り組む同社の積極的な姿勢を感じさせられるものであった。

bBの開発・立ち上げについての説明では、設計・実験・生産技術などに携わるスタッフが同じ部屋で作業する「大部屋方式」の導入や、設計をデジタル化し、コンピュータを使って車をまるごとシミュレーション（バーチャル検討）する手法の採用などによって、設計図面の品質を極限まで高めて試作を無くし、開発・生産準備期間を従来の18ヵ月から13ヵ月に短縮するとともに、不具合による設計変更の件数を従来の四分の一に低減した事例が紹介された。

質疑応答では時間を延長していただくほど活発な意見交換が行われ、また、見学後のアンケート結果も高い満足度を示した。

中部支部では、今後も会員のニーズを捉えた見学会を企画・開催していく予定である。 井上弘之(愛三工業)

第257回事業所見学会(関西支部)

滋賀県工業技術総合センター

去る平成12年3月22日(水)、第257回事業所見学会が、滋賀県栗東町の滋賀県工業

医療における組織管理に関する研究をおこなうということで承認を得た。

病院経営担当者として西村昭男日鋼記念病院理事長、宮城敏夫浦添総合病院理事長、松井道彦慈恵医科大学専務理事、富田信也河北総合病院財団事務局長、医療管理研究者として池田俊也慶應義塾大学講師、田村誠国際医療福祉大学講師、富田健司早稲田大学助手、榎孝悦榎コンサルティングオフィス社長、品質管理実務者として光藤義郎氏(JUKI株式会社)、研究者として久米均氏に協力を要請し、本年3月から、毎月1回委員会を開催している。事務局は当院事務次長小熊茂が担当している。7月から、赤尾洋二氏、小浦孝三氏に参加して頂いている。

まず、研究会の名称は、議論の結果、医療関係者にも受け入れられやすいように、医療経営の総合的「質」研究会ということにした。次いで、医療関係者と品質管理関係者と認識のすり合わせをおこなった。用語や基本的考え方(医療のあるべき姿、医療経営とはなにか、医療経営の質とはなにか、医療経営の質=医療経営の総合的質と考えて良いか、医療経営の質の要素、医療経営の質の指標、医療経営の質の基準)のアンケート調査を実施した。相互に読んでおくべき基本的書籍や資料を配付あるいは紹介している。毎回、1病院の事例報告と品質管理に関する話題に基づいて質疑応答をおこなっている。今後の展開が期待される。

技術総合センターで25名の参加者を集めて行われた。

滋賀県は、環境問題には早くから関心を寄せている自治体であり、同センターは都道府県の機関レベルでは全国で初めてISO14001を認証取得している。

今回は、業界ニーズに対応した技術開発の推進、相談指導等の総合的な産業支援と環境マネジメントシステムの構築・認証取得のノウハウを用いての、県内企業への支援について学んだ。

まず、井上所長から工業技術総合センターの役割について説明があった。

センターを訪れる際、国道沿いに広がっていた広い水田からは想像できないが、滋賀県は製造業中心の産業構造をしており、付加価値生産性も全国トップであるという。その中で同センターは地域の知的資源を最適な形で統合する役割を果たしてきており、県内で相次ぐ理工系大学(学部)の開設に対しても産学の連携が活発に行われており、大学内のレンタルラボも3大学29室となっている。

次に、前川専門員からISO14001認証取得の意義について説明があった。

滋賀県では環境施策として、法規制の上乗せ、横だし規制があり環境に対して敏感な企業が多い。しかし、企業としては、法規制対応が精一杯のケースも多くISO担当職員も不足している。このような状況で、中小企業向けのコンサルティング機関として、まず認証取得することが地方公設試の役割と判断したことが、ISO14001取得の背景としてあった。認証取得以降、環境保全関連プロジェクト研究、県内企業のISO14001取得のための施

2000年7月の入会者紹介

2000年7月11日の理事会において、下記のとおり正会員27名、準会員2名、賛助会員1社1口の入会が承認された。

(正会員) 27名 (敬称略)

○甲斐一憲(フレッシュウインド)、○鴨志田靖(キョーラク)、○駒ヶ峯正芳(長大)、○富田信也(河北総合病院)、○井上英俊(アダムネット)、○三留和人(千葉工業大学)、○角田啓子(K-Office)、○山科憲一(日本自動車研究所)、○飯山浩司(杉孝)、○新濱 仁、○新畑勝美(日立電線)、○唐石俊之(東芝テック)、○一重良治・池田俊一・中村 宏(JUKI)、○室井祐之・渡辺広之(JUKI大田原)、○中西みなと・石井宏司(SASインスティテュートジャパン)、○中野雅光(ナイルス部品)、○鬼頭正博(アイシン高丘)、○山本榮一(鹿島建設)、○三宅祥三(武蔵野赤十字病院)、○小松正昭(三菱電機)、○長田恭直(セイコーエプソン)、○玉木幸夫(松下コンサルティング)、○小澤全宏(日本電気)

(準会員) 2名

○今市仁美(東京理科大学)、○森川 綾(東京情報大学)

(賛助会員) 1社1口

○化学技術戦略推進機構(理事長 斉藤正三郎)

7月11日現在の会員数

正会員: 2693名

準会員: 91名

賛助会員: 194社、218口

公共会員: 21口

平成12年度「アルミニウム研究助成事業」公募

研究対象分野: アルミニウム材料研究に加え、物性・製造プロセス・成形加工・設計・感性工学・IT等、アルミニウムに関連または応用可能な広範囲な研究分野。

助成金額: 1技術研究課題当たり、第1年度は50万円、第2年度は30万円。第3年度は、第2年度と同額。

応募締切: 平成12年9月20日(水)

※詳細は下記までお問い合わせください。

(㊴)日本アルミニウム協会 事務局 小原
TEL 03-3538-0221 FAX 03-3538-0233
E-Mail JDU06261@nifty.ne.jp

http://www.aluminum.or.jp

(㊵)軽金属学会 事務局 田辺
TEL 03-3538-0232 FAX 03-3538-0226
E-Mail jilm@kt.rim.or.jp

http://www.jilm.or.jp/

策などに取り組んでおり、滋賀県庁全体もISO14001認証取得に取り組んでいる

配付資料としていただいた<認証取得支援マニュアル—導入の手引き>は非常にわかりやすくまとまった冊子だった。

お二人の説明の後、産業支援の一環として設置されている各分析・計測室や実験棟などを見学した。

他の地方公設試と比べて決して大規模ではないが、地域に密着して産業振興や情報提供に効率よく機能していると感じた。 小林昭夫(日科技連)